

令和8年度柴田町議会6月会議

一般質問通告書

《 目 次 》

順	議席番号	一般質問通告者	頁
1	2番	大橋 武彦 議員	1
2	5番	吉田 清 議員	2
3	1番	吉田 謙治 議員	4
4	4番	笠松 均 議員	6
5	13番	佐々木 裕子 議員	8
6	6番	小田部 峰之 議員	10
7	17番	吉田 和夫 議員	11
8	12番	平間 奈緒美 議員	12
9	16番	白内 恵美子 議員	13
10	3番	平間 康弘 議員	15
11	14番	高橋 たい子 議員	16
12	15番	広沢 真 議員	17
13	9番	平間 幸弘 議員	18
14	11番	大坂 三男 議員	20

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順1番] 2番 大橋 武彦</p>	<p>6期24年の滝口町政の総括と、次代へつなぐ説明責任と教育投資を問う</p> <p>滝口町長は、6期24年にわたり本町の町政運営を担ってこられました。まずは、長きにわたり町政の先頭に立ってこられたことに、敬意を表したいと思います。</p> <p>一方、今期限りで退任の意向を示された今だからこそ、これまでの町政運営を総括し、次の町政へ何を引き継ぐのかを町民に明らかにすることは重要であると考えます。</p> <p>また、この間、社会情勢は大きく変化しました。少子高齢化、人口減少、公共施設の老朽化、社会保障費の増加、災害への備え、物価高騰、そして教育環境の整備など、町の財政を取り巻く環境は厳しさを増し、町政課題は年々複雑化していると感じています。</p> <p>町民に対して財政状況を分かりやすく伝えることは大切である一方、不安だけを与えるのではなく、今後の方向性や希望もあわせて示すことが必要であると考えます。</p> <p>さらに、町長はこれまで「教育への投資」を大切にされてきたと受け止めています。学校施設や教育環境の整備は大切ですが、「教育への投資」とは、単に施設整備や予算額だけでなく、それを子どもたちの成長にどう結びつけるか、地域の未来を担う人づくりにどうつなげるかが重要だと考えます。</p> <p>そこで、次の点について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 6期24年の町政運営を振り返り、町長が最も力を入れてきたこと、また、成果として町民に伝えたいことは何か。 2) 今期限りで退任するに当たり、やり残したこと、次の町政へ引き継ぐべき最大の課題は何か。 3) 財政状況や地区ごとの課題を町民に説明する際、町長はどのような姿勢を大切にしているのか。 4) 町長が考える「教育への投資」とは、具体的にどのようなものか。また、これまでの「教育への投資」を今後どのように子どもたちの成長や人づくりにつなげていくべきと考えるか。 5) 町長から、町民、そして、これからの町政に関わる議会や執行部へ伝えたいことは何か。 	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順2番] 5番 吉田 清</p>	<p>1. 滝口町政 24 年の総括と、次代へつなぐ政治信念を問う</p> <p>今限りでの引退を表明されました滝口町長に対し、これまでの多大なるご尽力へ深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。ご勇退の報に接し、万感胸に迫る思いです。</p> <p>6期 24年という長きにわたり、激動する社会情勢の中で本町のかじ取りを担われ、住民福祉の向上と郷土の発展に心血を注いでこられました。その情熱と多大なるご功績に対し、改めて深甚なる敬意を表する次第です。</p> <p>滝口町長の最後の定例会議に当たり、次のことについて質問いたします。</p> <p>1) 町長が初当選された当時と現在では、本町を取り巻く環境は大きく変貌いたしました。数々の困難な決断を迫られる場面も多々あったかと思われませんが、この 24 年間、町長が常に揺るぎない指針としてきた「政治家としての信念」とは何であったか伺います。</p> <p>2) 手掛けられた数々の施策の中で、特に「町民の笑顔につながった」と確信されている事業について、今改めてその思いを伺います。</p> <p>3) 「やり残したこと」とともに、「次代へ託したい未来」としての切実なる願いを伺います。</p>	
	<p>2. 選挙事務に従事する職員の負担軽減と労働環境確保を問う</p> <p>令和 8 年 7 月 12 日に投開票を控える柴田町長選挙及び柴田町議会議員補欠選挙は、本町の行く末を左右する極めて重要な選挙です。</p> <p>選挙管理委員会をはじめ、全庁的な協力体制のもと、事前準備から当日の執行、そして深夜に及ぶ開票作業まで、公正な選挙を支える職員の皆様の献身的なご尽力に対し、深く敬意を表します。その上で、円滑かつ適正な選挙運営に向けた諸課題について伺います。</p> <p>1) 従事職員の負担軽減と労働環境について、今後執行される両選挙において、投開票事務に従事する職員の長時間労働や事務処理の重圧など、現場が抱える精神的・肉体的負担をどのように認識していますか。</p> <p>2) 若年層の投票率向上に向けた取組について、主権者教育の観点も含め、次代を担う若年層の投票率を向上させるため、どのような具体的施策を講じていますか。</p> <p>3) バリアフリー化と投票環境の整備について、高齢者や障害をお持ちの有権者が、戸惑うことなく投票所に足を運び、円滑に投票できる環境が整っているか、現</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順2番] 吉田 清</p>	<p>状の認識と今後の改善策を伺います。 4) 危機管理とバックアップ体制について、投開票当日におけるシステムトラブルや自然災害、あるいは不測の事態への備えとして、全庁的なバックアップ体制をどのように構築しているか伺います。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順3番] 1番 吉田 謙治</p>	<p>町の歴史資源を生かす取組を問う</p> <p>柴田町には誇れる歴史が数多くあり、町の魅力の一つにもなっています。過去には大河ドラマの舞台としても知られ、多くの方が町を訪れました。そのような数ある歴史を持つ中、現代でも世代を問わずに魅了するエピソードであるにも関わらず、まだあまり知られていない歴史が存在します。</p> <p>今回の質問では、町の隠れた歴史を生かし、地域の活性化につながる取組について町の見解を伺います。</p> <p>今から約440年前、現在の船岡城址公園で生まれた「お山の方」は柴田宗義の娘であり、のちに仙台藩主伊達政宗公の側室となりました。お山の方は伊達家七男、伊達宗高（村田伊達家当主）、次女、牟宇姫（石川宗敬の正室）の母であり仙南地域にゆかりのある歴史人物です。近年の調査では当時の生活の様子を伺うことができる資料も発見されています。</p> <p>資料では「お山の方」が家族思いで、花やお茶、お香、能などの多彩な文化にも精通している様子が分かります。また、政宗、お山の方、牟宇姫の3人が家族でお祝い事を行ったときの微笑ましいエピソードも見受けることができます。さらに、お山の方はその姿が木像として残されており、着物姿の当時の様子を知ることができます。ここまで当時の女性の記録が残っているのは珍しく、世代を問わずに愛着が持てる人物でありながら、町ではその存在を知っている人は少ないように思われます。</p> <p>正確な資料が残されており人物像が分かりやすく、当時のストーリーがイメージでき、現代においてキャラクター化できる可能性がある歴史的人物でもあります。花やお茶、お香、能などの文化にも精通していたことで、町のさらなる文化の発展にもつながる可能性を秘めています。</p> <p>これらの史実は、伊達政宗公の大河ドラマを誘致する会の会員でもある柴田町としても、仙台市が進めている伊達政宗公没後400年の大河ドラマ誘致に向けた取組に対して、新たな事実として積極的にPRできるコンテンツでもあると考えます。</p> <p>このようなことを踏まえ、次の点について質問します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「お山の方」を町のブランド推進事業の一つとして活用することはできないか。 2) 「お山の方」「伊達宗高」「牟宇姫」をテーマとした歴史題材を基に、仙南地域での広域連携イベントの 	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順3番] 吉田 謙治</p>	<p>実施を検討することはできないか。 3) 仙台市が進めている伊達政宗公没後400年の大河ドラマ誘致に向け、町としての取組はあるのか。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順4番] 4番 笠松 均</p>	<p>災害対策の抜本的強化を</p> <p>私たちが暮らす柴田町は、豊かな自然と歴史に恵まれている一方、地理的・地形的な特性から、様々な災害リスクを抱えているのが現実です。町の中央を流れる白石川は、春には一目千本桜を彩る美しい川ですが、大雨や台風の際には氾濫の危険性を持ち合わせています。</p> <p>また、阿武隈川水系の影響を受ける地域もあり、広域的な水害リスクを常に考慮しなければなりません。さらに、宮城県は全国的にも地震活動が活発な地域であり、東日本大震災をはじめ、度重なる地震や豪雨災害を経験してきました。柴田町においても、建物の耐震性、液状化の可能性、土砂災害危険箇所の存在など、地震に関連する複合的なリスクが存在しています。</p> <p>加えて、今日、我々を取り巻く気候変動の猛威は、もはや「異常気象」が「日常」となりつつある局面を迎えています。線状降水帯による未曾有の豪雨や、想定をはるかに超える規模での巨大地震の発生リスクなど、まさに「国難」とも呼ぶべき災害の脅威が、私たちの平穏な暮らしのすぐ隣に潜んでいます。国や県も浸水想定区域の見直しを進めており、私たちの町も例外ではありません。</p> <p>こうした状況の中で、町民の皆様からは、「自分の住んでいる地域はどれほど危険なのか」「避難場所は本当に安全なのか」「災害時に情報が届くのか」といった不安の声を聞きます。特に、高齢化が進む本町においては、災害弱者と呼ばれる方々への支援体制が十分であるかどうか、町の防災力を測る重要な指標となると考えます。</p> <p>災害は、いつ、どこで、どのような形で発生するか分かりません。ハード面の整備には多大な時間と予算を要することは承知しております。しかしながら、インフラ整備という「公助」の限界を認めつつも、町民一人ひとりの防災意識を高める「自助」、そして地域コミュニティが手を取り合う「共助」をいかに結びつけ、機能させていくか、防災・減災のトータルデザインを描くことが、本町に求められている最大の住民サービスではないでしょうか。</p> <p>そんな中で、ひとつだけ確かなことがあります。それは、「平時の備えこそが、災害時の被害を最小限に抑える唯一の手段である」ということです。「備えあれば憂いなし」という言葉を単なるスローガンに終わらせるのではなく、「この町に住んでいて良かったと実感できる、災害に強い町、強靱なまちづくり」を目指し、町民の皆</p>	

質問者	質問事項	備考
[通告順4番] 笠松 均	様が安心して暮らせる地域をつくるために、今後の具体的な施策などについて町の見解を伺います。	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順5番] 13番 佐々木 裕子</p>	<p>滝口町政 24 年の総括と今後の柴田町の方向性を問う</p> <p>滝口茂町長におかれましては 平成 14 年の初当選以来、6 期 24 年にわたり柴田町の行政トップとしてかじ取り役を担ってこられました。</p> <p>人口減少や少子高齢化、東日本大震災への対応、コロナ禍による地域経済の変化など、町を取り巻く環境が大きく変貌する中で、行政運営のかじ取りを続けてこられたことに対し敬意を表したいと思います。</p> <p>今後の動静について注視していたところ、今限りで引退するとの報道に触れることとなり、本定例会議が滝口町政最後の一般質問となることから、この 24 年間の総括と今後の柴田町の方向性について、町長の所見を伺います。</p> <p>1) 24 年間の町政運営の総括について</p> <p>① これまでの 6 期 24 年の町政運営を振り返り、町長自身が最も重視してきた行政理念とその成果を、どのように評価しているか伺います。</p> <p>② 少子高齢化や人口減少が進行する中で、定住促進、子育て支援、教育、福祉、産業振興、防災など、各分野における到達点と課題をどのように総括しているか伺います。</p> <p>③ 多選批判もある一方、長期政権であったからこそ実現できた施策、やり残した課題や今後へ引き継ぐべき課題について所見を伺います。</p> <p>2) 今後も継続すべき施策と、これから 30 年を見据えた柴田町の取組について</p> <p>① これまで町が進めてきた施策の中で、次期町政においても継続・発展させるべき重要施策は何であると考えているか伺います。</p> <p>② 今後 30 年を見据えたとき、人口減少社会に対応したまちづくり、公共施設やインフラの維持、地域コミュニティの存続、各産業振興、デジタル化、防災力強化などについて、柴田町に必要な取組をどのように考えているか伺います。</p> <p>③ 次世代を担う若者や子どもたちが「住み続けたい」、また、一度柴田町を離れた方が「戻ってきたい」と思える町にするために、今後必要となる視点について所見を伺います。</p> <p>3) 今後の柴田町の行政トップに期待することについて</p> <p>① 一部報道では「デジタル世代が台頭し、議会でもデジタル化に関する質問が増える中、町民に支持される政策提案が難しくなってきた」との町長コメントがありました。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順5番] 佐々木 裕子</p>	<p>今後の行政トップに最も求められる資質や姿勢について、どのように考えているか伺います。</p> <p>② 今後の柴田町において、行政と議会、そして町民との関係はどうあるべきと考えているか伺います。</p> <p>③ これからの柴田町を担う世代、そして町民に向けたメッセージを伺います。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順6番] 6番 小田部 峰之</p>	<p>休止中の船岡城址公園スロープカーの活用進捗と新車両導入に向けた観光展開は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) SNSや広報紙による情報発信、また、2025年度に実施された「写真撮影会」「一目千本桜100周年写真パネル展」「旧車両の公開と乗車体験」等のイベントは、観光客の再訪意欲やふるさと納税への動機付けにどう寄与したか、その手応えと結果は。 2) アクリルスタンド等のグッズ販売の反響を踏まえた今後の「ファンづくり」の展開、旧車両部品の「鑑定書付き販売」やストーリー性を持たせた展開など、希少価値を高める取組の検討状況は。 3) 来年3月の新車両導入に向け、寄附者が名前を刻める「ネーミングライツ」や「オーナー制度（つり革、ヘッドマーク、中吊り広告など）」を取り入れ、住民が「自分たちのスロープカー」として誇りを持てるような、具体的なクラウドファンディング計画は。 4) 新車両のデザインや機能に、広報活動を通じて寄せられた「利用者の声」をどう反映させたのか。また、これを単なる「車両更新」にとどめず、インバウンドをも呼び込む「町の観光の起爆剤（世界へのアピール）」とするための具体的な戦略は。 5) 役目を終えた旧車両を単に処分するのではなく、「保存」や「モニュメント化」によって新たなフォトスポットとして再定義し、公園内の回遊性を向上させる施策の検討状況は。 6) 観光客の満足度を高める「さくらの里」等の柔軟な営業体制について、公園内に多くの来園者が滞在しているにもかかわらず、「お店が閉まっていて休憩できなかった」という声が聞かれる。以前より柔軟に対応していただいている認識はあるが、新車両稼働による観光客増加を見据え、さらなる営業時間の柔軟化や利便性向上に向けた現状と今後の対策を伺う。 	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順 7 番] 17 番 吉田 和夫</p>	<p>高齢者に補聴器購入の助成を</p> <p>少子高齢化が進行する中、高齢者が住み慣れた地域で生きがいを持って暮らし続けるためには、コミュニケーションの維持と社会参加の機会の確保が極めて重要である。</p> <p>難聴は、多くの高齢者にみられる身近な課題であり、放置すると、会話や社会的交流が減少し、うつや無気力、認知機能の低下、さらにはフレイル（虚弱）につながるということが指摘されている。</p> <p>こうした中で、補聴器は難聴による生活の不便や社会的孤立を軽減し、認知症予防やフレイル予防にも有効な手段とされているが、補聴器は保険適用外であり、高額な自己負担が必要となる場合が多く、必要性を感じていても経済的な理由から利用をあきらめている高齢者が少なくない。</p> <p>近年、全国の市区町村においては、高齢の難聴者を対象とした補聴器購入費助成制度を創設し、社会参加の促進や認知症予防、フレイル予防を目的とした取組が広がりつつあり、県内にも多くの自治体が助成を開始している。本町においても、補聴器の利用を断念しないためにも助成をし、社会参加を促せるよう、次のことについて伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 県内でも助成している市町村が増えている理由を把握しているか。 2) 本町の高齢者で難聴と思われる人を把握しているか。 3) 高齢者を対象に、補聴器購入の助成はできないか。 	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順8番] 12番 平間 奈緒美</p>	<p>2026 しばた桜まつりの検証は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 今年の桜まつりにおける来訪者の満足度及び課題について、町はどのように把握・分析しているか。 2) 開花状況、混雑状況、駐車場の情報など、リアルタイム情報の発信についての検証は。 3) 新しく整備された出店エリアについて、メインのルートから人の流れを呼び込めず、出店者の皆様が苦労した現状を、町はどう検証しているか。また、来年度に向けて、初めて訪れた方でも迷わず足を運べるような「分かりやすい回遊動線」への再設計について、町の考えを問う。 4) 職員や関係者によるおもてなしの効果について、どのように把握・評価しているか。 5) 桜まつりは毎年、役場の人事異動の直後という極めて慌ただしい時期に重なっている。おもてなしの質を確実に確保するための引継ぎや研修、組織としてどのように対応しているか。 6) スマートフォンで完結する観光案内やデジタルマップの整備など、来訪者の利便性を高める情報発信の強化について、町の考えを問う。 	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順9番] 16番 白内 恵美子</p>	<p>1. ワンコイン浸水センサ実証実験参加への現状は</p> <p>国土交通省は令和4年度より、「ワンコイン浸水センサ実証実験」を行っており、令和7年度には232自治体に参加しています。柴田町でも参加へ向けて進めるとのことでしたが、現状について伺います。</p> <p>1) 県内の参加自治体は。 2) 実証実験参加へ向けての柴田町の現状は。 3) ワンコイン浸水センサを設置するメリットは。 4) ワンコイン浸水センサ1台当たりのイニシャルコストと、1年あたりのランニングコストは。 5) 実証実験終了後における国土交通省の将来的な目標は。</p>	
	<p>2. 林野火災時の避難について早急に検討を</p> <p>国内では昨年、今年と大規模な林野火災が相次いでいます。昨年2月に発生した岩手県大船渡市山林火災では、焼損面積が約3,370ヘクタールに及び国内最大規模となり、鎮火したのは41日後でした。今年4月22日に発生した岩手県大槌町の林野火災の焼損面積は1,633ヘクタールとなり、1,541世帯の3,233名に避難指示が出ました。大規模な林野火災の消火は困難を極め、鎮火にはかなりの日数を要したことから、近隣住民の皆さんの感じた脅威は計り知れません。焼損した林野の復元を祈るばかりです。</p> <p>全国で年間に発生する林野火災は、数百件から千数百件に及ぶとのこと。林野庁のホームページを見ると、令和2年から6年までに発生した林野火災のうち、原因が明らかなものについての原因別出火件数は、「たき火」が32.5%で最も高く、次いで「火入れ」「放火(疑い含む)」「たばこ」の順となっています。林野火災の多くは人間の不注意によるものであり、落雷などの自然現象によるものはまれとのこと。</p> <p>町内では、4月から5月にかけて暴風警報が何度も発令されました。私は今まで経験したことのないような暴風に見舞われ、そのときに「たばこ1本のポイ捨てでも大火災になり得る」と恐怖を感じました。柴田町においても、林野火災が起きた場合の避難について、早急に検討が必要です。町の考えを伺います。</p> <p>1) 仙南地域広域行政事務組合消防本部では、令和8年3月1日から「林野火災注意報・警報」の運用を開始したが、発令の基準は。「火の使用の制限」とは。住民への周知は進んでいるか。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順9番] 白内 恵美子</p>	<p>2) 柴田町地域防災計画には、105 ページの避難勧告等の対象に林野火災は含まれていない。また、255 ページの林野火災対策の中にも避難については明記されていない。万が一、町内で林野火災が発生した場合、住民の避難は何を根拠とし、どのように進めるのか。</p> <p>3) 西船迫団地は三方を山で囲まれており、林野火災が発生した場合は山林に隣接している2丁目、3丁目、4丁目の住民の避難が必要となる。優先避難所である船迫中学校は使用不可となり、船迫生涯学習センターも使用できなくなる可能性があるのでは。</p> <p>4) たとえ船迫生涯学習センターが使用できたとしても、収容人数は130名である。多数の避難が必要になった場合は、どこへ避難するのか。</p> <p>5) これまでの防災訓練は地震や水害に対する訓練だったが、山林に近接している団地では今後、林野火災も想定した訓練を行うことを提案する。 また、柴田町地域防災計画に林野火災時の避難について明記することを提案する。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順10番] 3番 平間 康弘</p>	<p>1. 本町の都市計画マスタープラン・立地適正化計画について問う</p> <p>柴田町人口ビジョンの推計では令和12年の人口は、35,795人でしたが、令和8年4月末の人口は、35,896人となっており、推計より減少のペースが4年ほど早く進んでいます。国や本町の重点政策であるコンパクト・プラス・ネットワーク都市計画も同様に計画を早める必要があります。そこで計画の5年ごとの評価見直し前ですが質問いたします。</p> <p>1) 居住誘導区域の人口密度を40人/haとするための具体策は。</p> <p>2) 居住誘導するための国からの支援施策はどのような施策がありますか。</p> <p>3) 本町として居住誘導の支援を検討していますか。</p> <p>4) これから四日市場1号線や新栄通線の延伸計画などネットワーク整備が進みますが、このネットワーク整備は居住誘導につながるのでしょうか。</p>	
	<p>2. 滝口町長の「町政だより」について問う</p> <p>滝口町長へ最後の質問をいたします。</p> <p>3月に発行された「町政だより」で、これから取り組む政策の一つに、「工業団地、商業施設の確保として槻木小学校北側、マルトモやイトーチェーン周辺に工場や商業施設を誘致するための用地を確保します」といった記載がありました。また、昨年6月会議での私の一般質問のやりとりの中では、当該地域への誘致については町にとって多くの課題があり、誘致は難しいということでした。</p> <p>私の考えは、今でも槻木地区の人口減少対策は誘致しかないと思っています。町長はこの政策に取り組むため、また、町長選に出馬するものと思っていました。取り組む政策を残したまま勇退されるのは非常に残念です。</p> <p>今回の「町政だより」で政策を変えた理由はどんなことだったのでしょうか。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順11番] 14番 高橋たい子</p>	<p>柴田町の環境美化促進は</p> <p>柴田町環境美化の促進に関する条例の第1条の目的に、「町民、事業者、土地又は建物の占有者、町等が一体となって、空き缶、空き瓶、紙くず、たばこの吸い殻等のごみの散乱を防止するとともに、散乱ごみの清掃を行うことにより環境美化の促進を図ること」とある。</p> <p>そこで伺う。</p> <p>1) 目的に基づいた現在の取組状況は。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順12番] 15番 広 沢 真</p>	<p>桜の害虫対策を</p> <p>現在、国内で特定外来生物であるクビアカツヤカミキリが生息域を広げている。この昆虫は、中国、東南アジアを主に生息域としていたが、2012年に愛知県で生息が確認され、その後、全国17都府県で確認されるまでに広がっている。クビアカツヤカミキリは、主にバラ科の植物に食害をもたらすもので、国内では桜、梅、桃などに被害が確認されている。宮城県に一番近いところと言えば栃木県で確認されており、福島県では全県に警戒を呼びかけている。</p> <p>桜の木が多数ある柴田町では、要警戒の時期に入っていると考える。繁殖した地域では、桜や桃に壊滅的な被害を受けているところもあり、対策が必要と考える。飛行能力のある昆虫だけに侵入を完全に防ぐことはできないが、自治体として町民、市民に監視を呼びかけているところが増えている。</p> <p>そこで、町としての考えを伺う。</p> <p>1) クビアカツヤカミキリの情報は。 2) 対策を考えているか。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順13番] 9番 平間 幸弘</p>	<p>1. 町道四日市場1号線ほか2路線道路改良工事の計画は</p> <p>町道四日市場1号線の道路改良工事は、県道52号線から直接岩沼方面へとつながるアクセス道路として、本町の交通ネットワーク及び利便性向上において非常に重要な路線として計画されています。令和8年度の当初予算においては、道路用地等の購入費として2,650万円が計上されており、いよいよ事業が本格化していくものと期待を寄せているところです。</p> <p>そこで、この道路改良工事の全体計画と今後の見通しについて、以下の3点を伺います。</p> <p>1) 用地取得から工事完了、そして実際の供用開始に至るまで、どのようなスケジュールを想定しているのか、具体的な完成の目途をお示してください。</p> <p>2) 本路線の整備に伴い、周辺道路の交通量の変化も予想されます。特に上槻道踏切から北側の区間について、道路の拡幅や安全対策を行う計画はあるのか伺います。</p> <p>3) 道路の改良、開通によって車両の通行量が増加、あるいは流動が変化することが懸念されます。当該地域における補導活動の連携を含め、子どもたちの通学路としての安全性をどのように確保していく方針か、具体的な対策を伺います。</p>	
	<p>2. 今年度の桜まつりの車両の規制とその対応は</p> <p>柴田町の「しばた桜まつり」は、県内外から多くの観光客が訪れる本町最大の観光イベントであり、その円滑な運営と安全管理には日々ご尽力いただいていることと存じます。しかしながら、安全のための「車両規制」の運用において、配慮を要する事案について町民の方から切実な声をいただきました。</p> <p>がん治療等による体力の低下から、一時的あるいは日常的に移動が困難となり、実質的な障害を抱えるに至った町民の方がいらっしゃいます。この方がご家族の運転する車で船岡城址公園へ桜の見学に訪れた際、「車椅子を利用しているものの、障害者手帳の提示がない」という理由から、さくらの里前の駐車場まで車で登ることを断られ、結果として体調の兼ね合いもあり、桜を観ることを断念して帰らざるを得なかったという事象が発生いたしました。</p> <p>手帳の有無という形式的な基準だけでなく、実際の歩行困難な状況や体調に応じた柔軟な対応がなされるべきであったと考えます。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順13番] 平間 幸弘</p>	<p>そこで、今年度の桜まつりにおける実際の車両規制の対応状況と現場での判断基準がどうなっていたのか、また、今後のユニバーサルデザインの視点に立った観光地運営に向け、手帳を持たない歩行困難者等への配慮・救済措置についてどのようにお考えか、その認識を伺います。</p>	
	<p>3. 滝口町政 24 年の総括を</p> <p>滝口茂町長におかれましては、平成 14 年の初当選以来、6 期 24 年の長きにわたり、本町のかじ取り役として卓越した手腕を発揮され、柴田町の発展と住民福祉の向上に全力を尽くしてこられました。</p> <p>この 24 年間を振り返りますと、平成 23 年の東日本大震災、また、令和元年の台風 19 号による甚大な豪雨災害など、激甚化する自然災害への危機管理や復興への対応をはじめ、町政運営におけるご苦勞は筆舌に尽くしがたいものがあったと推察いたします。そうした幾多の困難を乗り越えながら、協働のまちづくりや都市基盤の整備、子育て・教育環境の充実など、今日の柴田町の礎を築いてこられました。</p> <p>今ここに、改めてこれまでの多大なるご功績に敬意を表するとともに、長きにわたる「滝口町政 24 年間」の歩みを振り返り、町長ご自身がどのような思いで本町を率いてこられたのか、その「総括」と本町の未来へ託す思いを伺います。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順14番] 11番 大坂 三男</p>	<p>滝口町長の7選不出馬について問う</p> <p>「滝口町長の7選不出馬、町幹部に伝達」の報道に接し、いつかはその日が来るとは思っていたものの、それが現実なものとなり、とても残念です。</p> <p>新図書館を核としたにぎわいづくりが本格化する中での勇退に、心残りがあるのではないかと推察いたします。</p> <p>まだまだ意気軒昂なので、このプロジェクトが完成するまで頑張ってもらいたいとの気持ちがないわけではありませんが、受け止めざるを得ません。</p> <p>市民派の町長として、これまで町政を牽引してきたことに感謝しながら、やはり議員として滝口町政を客観的に評価しなければなりませんので伺います。</p> <p>1) 24年前、柴田町を変えようと立ち上がった時の公約は何だったのか。その公約について、今どのような評価をしているのか。</p> <p>2) 6期24年間の町政運営で心がけてきたことは何か。</p> <p>3) 開かれた行政運営を行う上で、思いどおりにいかなかったことや、歯がゆかったことはあったのか。</p> <p>4) 6期24年間で大きな論争が起き、苦労した出来事や、好印象を持った出来事は何か。</p> <p>5) 主要政策を企業誘致ではなく、「花のまち柴田」をメインとした理由は何だったか。その観光政策の中でA級観光地を目指し、桜まつり、紫陽花まつり、曼珠沙華まつりのPRに努めているが、花のまちとして次に力を入れていく花まつりは何か。さらに、ファンタジーイルミネーション等を含め、観光政策をバージョンアップして集客力を高め、地域経済アップに貢献する方法を考えるべきだと思うが、どうか。</p>	